



タクティクス (HBA指導者育成専門委員会ブログ)

北海道バスケットボール協会
指導者育成専門委員会

2008 / 8 / 9(土)

NO. 27

インターハイ北海道予選の男子のゲームについて前野和義委員から原稿が送られてきましたので掲載します。

今大会に参加して

指導者育成委員 前野和義

今大会は、私もベンチで指揮を取る立場であったので、残念ながら腰を据えて客観的な立場で試合観戦ができませんでしたが、男子を中心に自分なりの感想を述べさせていただきます。

女子と同様にシードチームが結果的には勝ち上がりました。昨年からゲーム経験の豊富なメンバーを揃え、サイズの的にもバランスの一番良かった東海大4高校が今大会を制しての優勝でした。また、準優勝は手薄なメンバーの中で、薄氷を踏む思いで恵庭南との接戦を制した大麻が、全国の二枚目の切符を手に入れました。

恵庭南も横島先生の転勤に伴い、新コーチとして就任した森河先生の苦労も大変なものであったと思いますが、徹底した大麻高校のトライアングル・ツーに苦しめられながらも後半は同点に持っていった力は素晴らしいものでありました。

上位を札幌勢が占める中、シードの一角であった旭川工業高校の奮戦も大会を盛り上げたものとなりました。大会2日目の札幌平岸戦を制して、今大会第1シードの東海大4高校に最後まで接戦を演じ互角に戦ったゲームでした。いかんせんサイズが無さ過ぎましたが、小さいチームでも戦い方によっては試合になるという点で参考になったのではないかと思います。しかし大会3日目の一番大事な大麻戦で緊張と疲れのために体の切れが悪く、またゾーンディフェンスが全く攻められなかったことは、コーチである私の責任と痛切に反省しております。

苫小牧駒沢高校 v s 札幌平岸高校も1回戦からの好ゲームで、ベスト8を目指すための戦いであり戦力的にはまったく互角でありましたが、ファールトラブルに悩まされながら駒沢が3クォーターに単調なオフェンスになったところを一気にゲームの流れをつかんだ平岸高校が勝利をつかむ結果になりました。

他会場で観戦ができなかったのですが市立函館高校 v s 札幌日大高校、釧路北陽高校 v s 旭川西高校もベスト8をかけた好ゲームを展開し、札幌日大と釧路北陽がそれぞれ勝ち上がりました。

初戦で敗退した北広島高校、北見北斗高校もまとまりを感じる、頑張り方を知っている良いチームでした。1年生に素晴らしい有望選手がいる函館有斗高校もこれからが楽しみなチームになると思います。

今年度の男子チームは東海大4の圧勝でありましたが、全国では、道内での対戦相手には無かった速さと高さを克服していかなければなりません。外国人相手でも通用するインサイドの技術、速いガードに対応できるディフェンス力、そし

て持前のアウトサイドのシュート力を一層磨いて、全国の一部を崩して勝ち上がっていくことを期待しております。

※ 『コーチとしての力量』に富む人は、多分こういう人であろうと今大会での自分の反省を含めて書かせてもらい終わらせていただきます。

1 今大会も選手の怪我によってベストのメンバーが組めないチームが多かったようです。一番影響があるのはポイントガードとセンターではないでしょうか。ファールトラブルの対応もそうですが、良い指導者は普段の練習からそれらのアクシデントを想定した練習を具体的に工夫して実践しているかどうかだと思います。

2 ゲームの作りで選手の対応力が一番問題となるのが2クォーターです。そして3クォーターではコーチの修正能力が問われます。これは実践的な練習で積み重ねることが一番ですが、ゲーム環境に恵まれないチームは負け試合のビデオやスコアブックを繰り返し見て、どこかに潜んでいる流れを引き寄せるきっかけを見つけることです。しかし負け試合を振り返るのは本当に勇気がいることですね。

賢いコーチは勝ち試合の中からも『課題』を『課題』としてしっかり残して練習に反映させているようです。

3 コーチとしての『人格』をつくる。良い指導者と云われる人はこのチーム人格を作れるコーチです。私もいまだに『チーム人格作り』に苦勞しています。

『チーム人格作り』に一番配慮することは選手の『個性』をどう評価するかだそうです。『個性』を無視するのではなく『個性』を修正してやることだそうです。

年齢を問わず素晴らしい指導者は身近にいるはずです。勇気をもって声を掛けて話を聞いてみましょう。(完)

H B A (北海道バスケットボール協会) 指導者育成専門委員会